



会 議 録

会議の名称	平成29年度 第2回行田市地域包括支援センター運営協議会	
開催日時	平成30年3月13日(火) 【開会：13時30分、閉会：14時30分】	
開催場所	行田市役所 305会議室	
出席者(委員) 氏名	中村 晴雄      青木 正      堀内 規 松井 毅      新井 孝幸      風間 祥一 富田 祐子      荻野 朋子      内田 愛三郎(敬称略)	
欠席者(委員) 氏名		
事務局	健康福祉部高齢者福祉課(野辺課長、柴崎地域包括ケア推進幹、春日主査、守主任)	
会議内容	(1) 各域包括支援センターの平成29年度中間事業報告 (2) 平成30年度地域包括支援センター運営方針(案) (3) 介護予防支援事業の委託先事業所承認について (4) 認知症初期集中支援チーム活動報告	
会議資料	(資料名・概要等) ○次第 ○資料一式 [資料1] 地域包括支援センター事業統計報告書(平成29年4月～平成29年12月) [資料2] 平成30年度行田市地域包括支援センター運営方針(案) [資料3] 地域包括支援センターが予防給付に係る業務を委託できる居宅支援事業者について [当日配布資料] 認知症初期集中支援チームへの相談事例(非公開)	
その他必要事項	事務局のほか、各地域包括支援センターから職員が4名出席した。	
会議録 の 確定	確定年月日	主宰者記名押印
	30年3月20日	中村晴雄 

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
松井委員	<p>○開会【13:30】</p> <p>○会長あいさつ（中村会長）</p> <p>○議事【13:35～】</p> <p><u>【1】地域包括支援センター平成29年度中間事業報告</u></p> <p style="text-align: right;">資料1</p> <p>「6ページ、7. 介護予防普及啓発事業」の出前講座について 地域で、どのような方が、どのような内容で依頼されてくるのか。 また、地域包括支援センター緑風苑が22回で多いが、地域での特徴があるのか。</p>
地域包括支援センター緑風苑	<p>各地域のサロン、シニアクラブの依頼が中心である。また、老人福祉センター永寿荘からの依頼により毎月講座を実施しているため、大きな数字となっている。</p> <p>講座の依頼内容は、開催する時期と場所に応じて異なるものである。認知症や介護予防について、夏であれば熱中症、冬であれば感染症などがある。インフルエンザについては、手洗いの方法等も講座で行っている。また、消費者被害防止についても、寸劇を混ぜながら講座を実施している。</p> <p>警察の交通安全講座とも一緒に行うこともある。</p>
中村会長	<p>この数字は、地域包括支援センターに直接申し込んだものについて計上しているのか。地域包括支援センター壮幸会が0であるが、市の方への申込のためであり、包括への直接の申し込みがないためか。壮幸会の担当地域でも、サロン等で講座を行っているようである。</p>
地域包括支援センター壮幸会	<p>地域包括支援センター壮幸会への直接の申し込みはない状況である。</p>
中村会長	<p>市の高齢者福祉課の窓口で直接申込みと、地域包括支援センターへは連絡が来ないから、計上されていないのか。</p>
事務局 	<p>市高齢者福祉課では、別に「楽しく長生き講座」という出前講座を実施しており、それについては別となる。</p>

青木副会長	<p>任意事業、認知症サポーター養成講座について、参加された人は1回の講座でどのくらいいるのか、又今年度の延べ人数はどのくらいになるのか。</p> <p>継続している講座とみられるが、養成講座を受けた方が、認知症の方へ、具体的にサポートしている事例を把握しているか。</p>
事務局	<p>地域包括支援センター緑風苑が行った認知症サポーター養成講座では、今年度の延べ人数で478名となっている。その他、地域包括支援センターまきば園や地域包括支援センターふぁみいゆも開催しているため、地域包括支援センターの開催分としては、500名より多くなると思われる。</p> <p>また、市全体での年間の統計では、700名前後である。</p> <p>認知症サポーター養成講座では、講座終了時にアンケートを実施し、そのアンケートの中で、ボランティア希望についての問いをさせていただき、希望のある方は氏名、連絡先等記入していただいている。記入のあった方については、認知症カフェでのボランティアをお願いしている。</p> <p>認知症の方への個別の日々のサポートについては、把握していない。</p>
青木副会長	700名位の方の年齢層は。
地域包括支援センター緑風苑	<p>若い方であれば、20代の方。しかし、地域包括支援センターまきば園が小学校、地域包括支援センター緑風苑が中学校から依頼があり、10代もいる。平均的には、50代から60代が占めている。平日の昼間やっている状況もあるため、年齢層が高くなっていると思われる。</p>
青木副会長	小学生や中学生も入っているのか。
地域包括支援センター緑風苑	<p>入っている。企業からの依頼も増えているので、若い方も増えている。</p>
<p><u>〔2〕平成30年度地域包括支援センター運営方針（案）</u></p>	
資料2	

中村会長	認知症地域支援推進員はすでに活動しているのか。
事務局	活動している。活動内容は、認知症カフェの内容について、市と共に検討している。また、市と認知症推進員会議を行っており、認知症施策全体について情報交換、検討をしている。
中村会長	地域の中で、認知症と思われる方がいるが、本人は「大丈夫」と言ったりする場合もある。そのような方の相談について、認知症地域支援推進員にすれば良いのか。
事務局	個々の事例についての相談は、地域包括支援センターに相談いただきたい。 認知症地域支援推進員は、市の全体の認知症施策について、検討する推進員となる。
	<u>〔3〕 介護予防支援事業の委託先事業所承認について</u>
	資料3
事務局	事業所名「ひろせの森」について、添付書類の確認により、介護予防委託に適していると思われる。承認いただきたい。
中村会長	意見がないようなので、承認とする。
	<u>〔4〕 認知症初期集中支援チーム活動報告</u>
	当日配布資料
地域包括支援センター緑風苑	事例1：受診拒否により治療が進まず周辺症状が進行し介護困難になっているケース 事例2：医療や介護サービスを継続しているものの主介護者である長男がかかわり方に苦慮している担当ケアマネからの相談ケース 事例3：適切な支援が受けられず認知症が進行してしまったケース
青木副会長	どのケースも、独居や高齢者のみ世帯となっている。認知症初期集中支援チームがうまく機能していたケースであると思う。 他の地域包括支援センターや介護支援専門員の役割分担ができ、機能

事務局	<p>している。</p> <p>今回のケースは、経過観察等になっているが、認知症の方は、特に独居の方については、最終的には施設入所で終結するという形が多くなると思われるが、行田市の場合は、施設入所できない場合が多く、在宅になると考えられるのか。</p> <p>施設入所で終結も考えられる。現在の市内の状況では、特別養護老人ホームの待機期間が短くなっているという印象もホーム側で持っており、不足していて、入所がなかなかできない状況はなくなっている可能性もある。</p> <p>また、市では今後、在宅ケアの方に力を入れていく計画になっており、独居であっても、在宅限界点を引き上げるようにしていきたい。もちろん、入所や入院も必要な時がある。</p> <p>しかし、ご本人が自宅での生活を希望されていれば、なるべく自宅での生活を支えていきたい。そのためにも、認知症初期集中支援チームが早期に関わることで、適切な医療、特に専門医療や介護サービスの導入をなるべく早くしていきたい。</p>
青木副会長	<p>目標としては、ご自身が住み慣れたところで最期までを支えていくということですね。そうすると、認知症の方もますます増えていくし、フォーマルなサービスだけでは、将来的に足りなくなり、インフォーマルな部分で見守りができることなども必要になる。今後、インフォーマルが必要なケースについても紹介いただきたい。</p>
富田委員	<p>その相談事例は、統計のどの表に入るのか。</p>
地域包括支援センター緑風苑	<p>この事例については、結果的に介護支援専門員や地域包括支援センターの相談支援で終了している。そのため、資料1の4ページ、3包括的・継続的ケアマネジメントのケアマネ相談に計上している。</p>
富田委員	<p>統計表についてであるが、結果的なものの計上となっているようだが、重複して件数を計上しているものがあるのか。</p>
事務局	<p>統計については、計上方法は市から指示している。重複がないように指示している。また、内訳が必要なものは再掲として計上している。</p> <p><b>閉会【14:30】</b></p>

